「力」に関するノート

(I)

村　上　吉　男

シモーヌ・ヴェーユ（1909～1943）の著作は単行本として死後出版されている。生前の執筆活動は，未定稿の戯曲『救われたヴェネチア』，少女時代からの何篇かの詩，刊行を希望しつつ果せなかった『自由と社会的抑圧との諸原因についての考察』，ほぼ完成しかかった『根をもつこと』という作品のほか，数十種の雑誌への寄稿論文，両親や友人宛に小まめにだされた書簡，講義録，無数の覚書ノートの多方面にわたっている。ところが，単行本のなかに，これらすべてが網羅されているということでは決してない。それは，原稿の未発見に起因したり，草稿程度のものであったり，あるいは，アルベール・カミュをはじめとする編纂者の意向に主に基づくと思われる。その単行本の冊数は，それでも17[1] にのぼるはずである。

偶然にしろ，その単行本のいずれかに出会った読者は，それを読んでおそらく，いろいろな感想をもたれるだろう（『ノート』『ギリシアの泉』以外すでに翻訳がある）。そういうわけだから，たとえば，シモーヌ・ヴェーユにつけられる肩書は，実にさまざまになる。無政府主義者，サンディカリスト，トロツキスト，コミュニスト，ファシスト，実存主義者，社会思想家，キリスト教徒，神秘主義者，神学者，宗教思想家，自由思想家，妖術者，交霊術者，占星術者が，そうした肩書である。その是非をここで問うことなく，また，妖術者以下の論外な肩書を外して考えると，そこには，活動家や宗教者としての特徴が浮びでてこよう。これはさらにいって，それぞれ，彼女の前半生と後半生の特徴になるようだ。そのことは，彼女の生涯を克明にたどる作業を通して，明らかにされるだろう。しかし，わたしはここで，その作業を繰返そうと思わない[2]。ただ，確認の必要があるというなら，そのための，もうひとつの作業を試みたあとに，彼女の特徴が肯定されるか否かを決めても遅くない，と思うだけである。

この作業とは，先に記しておいた17の単行本に注目し，そこに組み入れられている作品群だけでも，発表の順序にできるかぎり並べ変えて，ある調査をすることである。検証の一方法は，頻繁に使用される単語（言葉）を抜きだしてみることだ。そうすると，たとえば，彼女の前半生には「抑圧」(oppression)，「革命」(révolution)，また後半生には「神」(Dieu) という名詞が，非常に多く目についてくるだろう。そうした検証の結果によっては，いま問うているような問題に対しても，おそらく，答えが与えられるはずである。しかし，一時期にみられる単語の使用頻度から，シモーヌ・ヴェーユを活動家だ，宗教者だとみなす，短絡的な判断は，しばらく中止しなくてはならないのだ。なぜなら，「抑圧」「革命」「神」は，作品全体にわたって見出される単語とはならないからである。それらの言葉があらゆる作品に用いられると仮定しても，今度は彼女の特徴が否定されるだけであり，彼女は同時に，あたかも二つの領域で活躍することになってしまうだろう（後半生の彼女は，確かに，活動家としての目立った行動をとらなくなったが，依然社会評論の執筆を続けている）。しかし，そういう前提に立って捉えてはおかなかったのである。またかりに，「抑圧」なる言葉の意味が豊富で，そのひとつの意味が「神」を暗示するような内容をもつとみることができるなら，活動家と宗教者の肩書に何らかの関係が存するということで，事情は異なってくるだろう。しかし，「抑圧」「革命」と「神」とのあいだには，いかなる関連性もない，ということなのだ。そうすると，彼女は活動家から宗教者に転向した，と受け取られてしまうのか。そうではない。ジャック・カボーもいうように，「シモーヌ・ヴェーユの思想は卓越した意識のドラマ以外の何ものでもなく，その発展は際立った一貫性にある」[3] ことを認めなければならないからだ。

そこで，問題は次のようにまとめられてくる。つま

り，思想の発展の一貫性のうえに立てば，その視点での作業の結果において，シモーヌ・ヴェーユの特徴も別角度から捉えなおすことが可能になり，それにはじめて解答が導きだせるのではないのか，ということである。いいかえると，活動家としての，生涯の前半の時期(およそ1935年7月末日の工場体験を終えるまで)によくでてきた「抑圧」や「革命」と，宗教者の立場を保持した，後半の時代に頻繁に使用された「神」の単語では，一貫して発展する思想の接点が見出されないのだから，この作業においては，当然，作品全体にでてきそうな単語を，しかも彼女の思想の深化にあずかる言葉をほかにもとめることが課せられてくる，というわけである。

むろん，それによって，シモーヌ・ヴェーユの特徴としたことにも答えがでるだろうが，いまは何といっても，その単語はいかなるもので，どんな根拠のもとに抜きだされたのか，を質すことにつきてこよう。この単語は，彼女自身にとって，「抑圧」「革命」「神」と同様，少なからず関心のありかを示す言葉となる。それは，すでにタイトルに記してあるように，作品全体をみわたしても，決して一時期の使われ方でなく，また彼女の思想を解くうえでのキー・ワードになる，「力」という言葉である。「力」なる単語に関心を寄せるからこそ，彼女は作品全体にわたって，それを使用しだすのだろう。

ところで，その言葉は，たとえ関心があったとしても，同じ意味内容を有して，シモーヌ・ヴェーユの死まで使われたのだろうか。そうであるなら，一生涯，活動家にとどまるにちがいない。そして，宗教者の相貌は彼女から消え去りかねない。しかし，すべては「力」を検証する，その結果待ちなのではあるが，その「力」の把握の仕方に変化をみる，ということが可能になってくるならば，彼女の特徴をひとまず肯定し得るだろう。わたしたちが彼女のいう「力」を理解する際に，「力」が変化し，ないし深化した，と捉えるのは間違いではない。なぜなら，「力」を意味するフランス語はいくつかあり，彼女はそれらをふんだんに利用することになるからだ。フランス語は「力」の言葉（名詞）として，Force, Pouvoir, Puissance, ときに「力」の内容を有する場合に用いる Pesanteur, さらに彼女だけの特殊用語となって，およそ力に似たものとなる Vertu を所有している。だから，どの単語がいつ，どれほど使用されたかなどを調べることによって，わたしたちが捉える「力」の内容に異なりをみせるはずである。そのことが同時に，彼女の一貫性に基づく思想の変化（深化）に該当してくるように思われる。思想とはこの場合も，「考え方」というほどのものに受け取ってかまわないが，そうした「力」に対する思想の変化（深化）は，いったい何を意味するのか。

シモーヌ・ヴェーユは，「力」の内容に，自然現象の力（Puissance manifeste de la nature[4]），人間関係における力（Puissance collective de la société[5]），そして，神的な力（Puissance de Dieu[6]）を組み入れる（これらの力に Puissance が使用されるのはなぜか，そのときほかの力を表わすフランス語はどうなるのか，などの「力」の分析や比較は，「力」に関するノートⅡで展開する予定にしている)。したがってここで，かりに彼女の特徴となった活動家と宗教者の肩書に，これらの力を対応させるなら，当然，前者の活動家に関係してくる「力」は人間関係における力になるであろうし，後者には神的な力が位置してくるだろう。この肩書と「力」とのかかわりを，「力」の観点に優先権を与えてみることにすれば，活動家や宗教者にならざるを得なくしたのは，結局，彼女をはじめとする人間がこれらの力にうちのめされてしまうからである（彼女が活動家や宗教者の特徴をもつようになる状況については，『霊的自叙伝[7]』に詳しいから，その説明も割愛する)。「力」が人間から，また神からものしかかってくる状況を解決しようとして，彼女が活動家や宗教者になったことは，それ自体ですでに，彼女が「力」の意味に変化や深化を加えて捉えていた，ということである。そうすると，「力」は活動家と宗教者とを結びつける言葉になってくるのだ。それが「力」の単語を抜きだした理由である。それゆえ，「力」は，活動家や宗教者の個々にいまだ執着していうなら，彼女の，その特徴を浮びだす原因となるだろうし，彼女の後半生は前半生のうえに立って，その深まりに達した生である，とみることができるだろう。しかし，そのときになってまで，活動家や宗教者の相貌を彼女にみることは必要であろうか。活動家ないしは宗教者の解釈にのみこだわっていては，彼女を，また彼女の思想を理解することには絶対ならないのだ。なぜなら，再びジャック・カボーの言を借りていうところの，「シモーヌ・ヴェーユが力についていっていることは，実際には不幸に関して語っているのだ。力

は，人間のあるがままの運命，つまり，冷酷な必然性にゆだねられ，自己の諸価値の消滅に脅かされ，苦しみにさらされた人間の運命の把握を可能にさせる，誘導主題となる[8]」ような，この「力」こそ，わたしたちに，その相貌を否定しさり，真の位置づけを確証させる言葉になるからである。

そこで，「力」の問題を解明するための材料になると思われる表を，以下に早速，作成してみることにする。なお，B・C表の〈　〉内は註1）に記したように，17冊の単行本のタイトル略号文字である。

（A）

単行本に組み入れられない新聞・雑誌発表や書簡の年代順表。

	年　代	作　品　名	初出機関
1	1924	「ベッサラボー夫人へのソネット」(Sonnet à Mme BESSARABO)[9]	
2	1929・5・20	「知覚について，あるいはプロテウスの冒険」(De la perception ou l'aventure de PROTEE)	A n° 5, pp. 237-241
3	1929・8・20	「時間について」(Du temps)	A n° 8, pp. 387-392
4	1931・10月	「労働総同盟定期大会（傍聴者の手紙）」(Le Cogrès de la C. G. T (Lettre de l'Observateur))	A n° 10, pp. 474-476
5	1931・11月	「経済恐慌に関する考察」(Réflexion concernant la crise économique)	B n° 68, pp. 69-72
6	1931・11・21	「組合統一への歩み。ルピュイにおける組合連合集会」(La marche vers l'unité syndicale. Une réunion intersyndicale au Puy)	C n° 282, p. 2
7	1931・12・19	「調査委員会の余白に」(En marge du Comité d'Etudes)	C n° 286, p. 2
8	1932・1・2	「二二人委員会の解消後に」(Après la mort du Comité des 22)	C n° 288, pp. 1-2
9	1932・1・14	「失業者運動の新段階」(Une nouvelle étape dans le mouvement des chômeurs)	D n° 不詳, p. 不詳
10	1932・1・20	「1月16日の集会」(Réunion du 16 janvier)	C n° 291, p. 2
11	1932・1・21	「ある教訓的な話」(Une histoire instructive)	D n° 不詳, p. 不詳
12	1932・1・23	「サン＝テチェンヌ地方にて」(Dans la région stéphanoise)	C n° 不詳 p. 2
13	1932・1・30	「搾取の諸形態」(Les modes d'exploitation)	C n° 292, p. 1
14	1932・1月-2月	「カスト制度の生き残り」(Une survivance du régime des castes)	B n° 70, p. 148
15	1932・2・6	「調査サークル」(Cercle d'Etudes)	C n° 293, p. 2
16	1932・2・20	「非武装会議」(La Conférence du Désarmement)	C n° 295, p. 1

	年代	作品名	初出機関
17	1932・3・12	「資本と労働者」(Le capital et l'ouvrier)	C n° 298, p. 1
18	1932・3・19	「ある鉱山を訪れて」(Après la visite d'une mine)	C n° 299, p. 1
19	1932・3月	「ブリアンの死後に」(Après la mort de BRIAND	A n° 3, pp. 165-166
20	1932・4・16	「フリッシュの死をめぐって」(Autour de la mort de FRITS CH)	C n° 303, p. 2
21	1932・4月	「ダニエル・ゲランによる《恐慌について。資本主義の破産と労働者の怠慢》に対する回答」(Réponse à《A propos de la crise. Faillite capitaliste et carence ouvrière》, par Daniel GUERIN)	E n° 126, p. 11, 機関誌宛の書簡も含む
22	1932・4月	「フリッシュの虐殺と埋葬」(L'assassinat et l'enterrement de FRITSCH)	E n° 126, pp. 3-4
23	1932・7・2	「ソヴェト連邦とアメリカ」(U. R. S. S. et Amérique)	C n° 314, p. 1
24	1932・8・19	「ミシェル・デリュへの手紙」(Lettre à Michelle DERIEU)	
25	1932 8月	「ドイツからの手紙」(8月20日)(Lettre d'Allemagne (20 août))	A n° 8, p. 422
26	1932・10・27	「デリュ修道女への手紙」(Lettre à une sœur DERIEU)	
27	1932・秋か冬	「テヴノンへの手紙」(Lettre à THEVENON)	E n° 362, pp. 14-16
28	1932・12・10	「ドイツ共産党と労働組合」(Le parti communiste allemand et les syndicats)	E n° 141, p. 14-15
29	1933・2月	「組合のある友人への手紙」(Lettre à un camarade syndicaliste)	F n° 5, pp. 8-9
30	1933・6・25	「フレネ事件」(L'affaire FREINET)	A n° 6, pp. 326-327
31	1933・7・5	「デリュ修道女への手紙」(Letttre à une soeur DERIEU)	
32	1933・7・10	「C. G. T. U 組合員への訴え」(Un appel aux syndiqués de la C. G. T. U)	E n° 155, pp. 15-16[10]
33	1933・7・22	「労働者の国際的祖国」(Le patrie internationale des travailleurs)	C n° 389, p. 4
34	1933・9月	〈書評〉「E・O・フォルクマン著『ドイツ革命』」(E・O・VOLKMANN: La révolution allemande)	G n° 9, p. 129
35	1933・9月	〈書評〉「E・グンター＝グルンデル著『若い世代の使命』」(E. GUNTHER-GRUNDEL: La mission de la jeune génération)	G n°9, p. 137
36	1933・10・28	「あの平和主義者たちはみなどこにいたか」(Où étaient-ils tous ces pacifistes?)	C n° 402, p. 2

	年　代	作　品　名	初出機関
		「C. G. T. U 大会」(Le congrès de la C. G. T. U)	
37	1933・11月	〈書評〉「ローザ・ルクセンブルグ著『地獄からの手紙』」(Rosa LUXEMBOURG: Lettres de la prison)	G n° 10, pp. 180-181
38	1933・12・2	「ソヴェト連邦の問題」(Le problème de l' U. R. S. S)	C n° 406, p. 4
39	1933・12・10	「集団の利益と権力者の利益」(L'intérêt "collectif" et l'intérêt des puissants)	E n° 164, p. 24
40	1933・12・13	「デリュ修道女への手紙」(Lettre à une soeur DERIEU)	
41	1933・12・16	「科学的社会主義の概念」(Notion du socialisme scientifique)	C n° 409, p. 2
42	1933〜1934	「シュザヌ・フォルへの2通の手紙」(Deux lettres à Suzanne FAURE)	
43	1934・2・3	〈講演（同年2月7日予定〉シモーヌ・ヴェーユのマルクス主義についての講演の要約 (Schéma de la conférence sur le marxisme de Simone WEIL)	C n° 416, p. 2
44	1934・3・6	「デリュ修道女への手紙」(Lettre à une soeur DERIEU)	
45	1934・3月	〈書評〉「オットー・リューレ著『カール・マルクス』」(Otto RUHLE : Karl MARX)	G n° 11, pp. 246-247
46	1934・7・10	「ナチ党の内紛はどうして膿んできたか。ドイツからの手紙」(Comment a mûri le conflit interne du parti nazi. Lettre d'Allemagne)	E n° 178, pp. 12-13
47	1934・7・25	「権力は誰のためにあるのか」(A qui le pouvoir?)	E n° 179, p. 7[11]
48	1934・夏	「デリュ修道女への手紙」(Lettre à une soeur DERIEU)	
49	1934・後半	「シモーヌ・パスカルへの手紙」(Lettre à Simone PASCAL)	
50	1934・12・11	「テヴノンへの手紙」(Lettre à THEVENON)[12]	
51	1935・7・9	「ミシェル・デリュへの手紙」(Lettre à Michelle DERIEU)	
52	1935・9・23	「クロード・ジャメへの手紙」(Lettre à Claude JAMET)[13]	
53	1935	「シモーヌ・パスカルへの手紙」(Lettre à Simone PASCAL)	
54	1935	「シュザヌ・フォルへの手紙」(Lettre à Suzanne FAURE)	
55	1936・7・15	「職場占拠。被搾取者の回想」(Sur le tas. Souvenirs d'une exploitée)[14]	H n° 7, pp. 3-15

	年　代	作　品　名	初出機関
56	1936・9・25	「クロード・ジャメへの手紙抄」(Extraits d'une lettre à Claude JAMET)	I n° 22, p. 244
57	1936・10・23	「C. G. T の声明」(La déclaration de la C. G. T)	J n° 519, p. 8
58	1936・12・4	「金属労働者の大会」(Le Congrès des Métaux)	J n° 525, p. 6
59	1937・2・4	「モロッコについてのほんのちよっとした歴史」(Un peu d'histoire à propos du Maroc)	K n° 17, p. 3
60	1937・2・10	「パリ地区労働組合連合大会」(Le congrès de l'Union des Syndicats de la Région Parisienne)	E n° 240, pp. 27-28
61	1937・2・11	「権威の危機」(Crise d'autorité)	K n° 18, p. 5
62	1937・3・18	「ローマ民衆のストライキ」(La grève des plébéiens romains)	K n° 23, p. 4
63	1937・4・8	「国家の威信と労働者の名誉」(Prestige national et honneur ouvrier)	K n° 26, p. 2
64	1937・4・22	「戦争の危険と労働者の征覇」(Les dangers de guerre et les conquêtes ouvrières)	K n° 28, p. 4
65	1938・3・25	「直接交渉のために」(Pour une négociation immédiate)[15]	I n° 54, p. 90
66	1940・春	「エドアルド・ヴォルテルラへの手紙」(Lettre à Edoardo VOLTERRA)	
67	1940・11月	「文部大臣カルコピノ」(Lettre à CARCOPINO, ministre de l' Education nationale)[16]	
68	1941・4月	「キリスト教青年労働者連盟の人びとについて」(A propos des Jocistes)	L n° 234, pp. 245-246
69	1941・5月	「哲学」(La philosophie)	L n° 235, pp. 288-294
70	1941・6月	「ギュスターヴ・ティボンへの手紙」(Lettre à Gustave THIBON)	
71	1941・6・30	「一同志への手紙」(Lettre à un camarade)	
72	1941・8・6	「ある友への手紙」(Lettre à un ami)	
73	1941・夏	「文学の責任について，と呼ばれるカイエ・デュ・シュドへの手紙」(Lettre aux Cahiers du Sud sur les responsabilités de la littérature)[17]	
74	1941・夏	「キュスターヴ・ティボンへの手紙」(Lettre à Gustave THIBON)	
75	1941・夏	「ルネ・ドマルとヴェラ・ドマルへの手紙」(Lettre (à René et Vera DAUMAL)	
76	1941・10・10	「リーイ提督への手紙」(Lettre à l'amiral LEAHY)	

	年　代	作　品　名	初出機関
77	1941・10・18	「ユダヤ人問題局長官グザヴィエ・ヴァラへの手紙」(Lettre à Xavier VALLAT, commissaire aux Questions juives)	
78	1942・5・20	「ギュスターヴ・ティボンへの手紙」(Lettre à Gustave THIBON)	
79	1942・5・26	「ギュスターヴ・ティボンへの手紙」(Lettre à Gustave THIBON)	
80	1942・5・26	「S...への手紙」(Lettre à S)	
81	1942・5月	「ギョーム・ガンデへの手紙」(Lettre à Guillaume GUINDEY)	
82	1942・夏	「ベルシエ博士への手紙」(Lettre à docteur BERCHER)	
83	1944・1月	「道徳と文学」(Moral et littérature)	L n° 263, pp. 40-45
84	1946・1月-3月	「読みの観念についての試論」(Essai sur la notion de lecture)	M n° 1, pp. 13-19
85	1951	「アソロのサン・アンジェロ教会のロマネスク様式フレスコ画」(La fresque romane de l'Eglise Saint 'Angelo à Asolo)	N n° 6, pp. 612-614

（B）

新聞・雑誌への投稿や書簡その他が単行本に組み入れられ，しかもそれらの発表の日付けの比較的明らかな年代順表。

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
1	1920	「火の妖精たち」(Conte des lutin du feu)		38					〈VS〉 pp. 37-40
2	1926・1月	「シャルルマーニュ祭りの会食時に読まれた詩」(Vers lus au goûter de la Saint-CHARLEMAGNE)						20	〈VS〉 pp. 16-20
3	1926か1927	「金持ちの若い娘に」(A une jeune fille riche)							〈VS〉 pp. 13-15
4	1929	「稲妻」(Eclair)	L n° 284(1947年), p. 566						〈VS〉 p. 21
5	1930	「デカルトにおける科学と知覚」(Science et perception dans Descartes)[18]		31,47	55,56(4),57(3),59(3),60(8),61,62(2),63,65(4),66,67(2),68,69,76,77(3),94(3)	45,50,54(3),55(4),56(4),57,59,60(5),61(2),62(4),63(3),68,69(4),72,78,81,86,88		67	〈SS〉 pp. 9-99
6	1931・7・20	「ポール・ヴァレリーへの手紙」(Lettre à Paul VALERY)							〈VS〉 pp. 9-10
7	1932・8・25	「ドイツの第一印象」(Premières impressions d'Allemagne)	E n°134, p. 14[19]		124				〈EHP〉 pp. 124-125
8	1932・8月	「ドイツ革命の条件。レオ・トロツキー著『そして今は』」(Conditions d'une révolution allemande. 《Et maintenant?》, par Léon TROTSKY)	A n°8, pp. 417-421	118,119	119(3),121(2),123				〈EHP〉 pp. 117-123
9	1932・10・25	「待機するドイツ（ドイツの印象）」(L'Allemagne en attente (Impressions d'Allemagne))	E n°138, pp. 6-12						

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
10	1932・10・25	「待機するドイツ（8月9月の印象）」(L'Allemagne en attente (Impressions d'août et septembre))	A n° 10, pp. 562-532[20]	128(2),129(2),130(2),131(5),132(2),133,141,142	127,132(3),133,139,140(4)	131			〈EHP〉pp. 126-142
11	1932・11・25	「待機するドイツ（8月9月の印象）〔続〕」(L'Allemagne en attente (Impressions d'août et septembre) 〔Suite〕)	A n° 11, p. 583-590						
12	1932・11・25	「ベルリン交通ストライキの教訓」(Les enseignements de la grève des transports à Berlin)	A n° 11, pp. 590-591	143,144		144			〈EHP〉pp. 143-144
13	1932・11・25	「ドイツの選挙」(Les élections allemandes)	A n° 11, p. 591[21]		144				〈EHP〉pp. 144-145
14	1932・12・4	「ドイツにおける状況〔Ⅰ〕」(La situation en Allemagne 〔Ⅰ〕)	O n° 10, pp. 146-148	148,150,151	148				〈EHP〉pp. 146-151
15	1932・12・18	「ドイツにおける状況。ヒットラーの運動〔Ⅱ〕」(La situation en Allemagne. Le mouvement hitlérien 〔Ⅱ〕)	O n° 12, pp. 178-180	151(2),152,155(6),156(2),157(3)	157	154			〈EHP〉pp. 151-157
16	1932	「数学教育」(L'enseignement des mathématiques)		106					〈SS〉pp. 105-109
17	1933・1・8	「ドイツにおける状況。ドイツ改良主義〔Ⅲ〕」(La situation en Allemagne. Le réformisme allemand 〔Ⅲ〕)	O n° 15, pp. 235-237	158,159,160(2)	159(2),160,161(2),162				〈EHP〉pp. 158-163
18	1933・1・15	「ドイツにおける状況。ドイツ改良主義（続）〔Ⅳ〕」(La situation en Allemagne. Le réformisme allemand (suite) 〔Ⅳ〕)	O n° 16, pp. 249-251	167(2)	166				〈EHP〉pp. 164-168
19	1933・1・29	「ドイツにおける状況。共産主義運動〔Ⅴ〕」(La situation en Allemagne. Le mouvement communiste 〔Ⅴ〕)	O n° 18, pp. 284-285	168,171(3)					〈EHP〉pp. 168-172

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	Vertu	単行本タイトル略号文字
20	1933・2・5	「ドイツにおける状況。共産主義運動（続）〔Ⅵ〕」(La situation en Allemagne. Le mouvement communiste (suite)〔Ⅵ〕)	O n° 19, pp. 300-301	174(3)					〈EHP〉 pp. 172-175
21	1933・2・12	「ドイツにおける状況。ドイツの共産主義運動〔Ⅶ〕」(La situation en Allemagne. Le mouvement communiste allemand〔Ⅶ〕)	O n° 20, pp. 315-316		177				〈EHP〉 pp. 175-179
22	1933・2・19	「ドイツにおける状況。ドイツの共産主義運動（続）〔Ⅷ〕」(La situation en Allemagne. Le mouvement communiste allemand (suite)〔Ⅷ〕)	O n° 21, pp. 329-332	180(2),181(3),182(2),183(2),185	180,184(3)				〈EHP〉 pp. 179-185
23	1933・2・25	「ドイツにおける状況」(La situation en Allemagne)	A n° 2, pp. 90-92	387	387(6), 388(4)				〈EHP〉 pp. 386-389
24	1933・2・26	「ドイツにおける状況。ドイツ共産主義（続）〔Ⅸ〕」(La situation en Allemagne. Le communisme allemand (suite)〔Ⅸ〕)	O n° 22, pp. 347-348						〈EHP〉 pp. 186-189
25	1933・3・5	「ドイツにおける状況。ドイツ共産党（完）〔Ⅹ〕」(La situation en Allemagne. Le parti communiste allemand (fin)〔Ⅹ〕)	O n° 23, pp. 363-365		190,192				〈EHP〉 pp. 189-194
26	1933・3月	「テクノクラシー，ナチ主義，ソヴェト連邦，その他についての考察」(Réflexions concernant la technocratie, le national-soialisme, et quelques autres points)			41(3)				〈OL〉 pp. 39-44
27	1933・4・9	「ドイツにおける状況について」(Sur la situation en Allemagne)	O n° 28, pp. 453-454						〈EHP〉 pp. 195-196
28	1933・5・7	「ドイツにおける状況について。M. O. R への回答についての	O n° 31						〈EHP〉 pp. 197-202

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
		覚書」(Sur la situation en Allemagne. Quelques remarques sur la réponse de la M. O. R)[22]	pp. 498-500						
29	1933・7・23	「世界政治のなかのソヴェト連邦の役割」(Le rôle de l' U. R. S. S dans la politique mondiale)	O n° 42, pp. 693-695	204	207,208	205(4),207(2),208			〈EHP〉 pp. 203-208
30	1933・8・25	「展望，わたしたちはプロレタリア革命に向っているか」(Perspectives, Allons-nous vers la révolution prolétarienne)	E n° 158, pp. 3-11	12,14,16,21(3),22(2),26(2),27,28,32,33(4),34(2),35,37(2),38 …… 260(4),261	13,14(2),18(4).24,29(2),31 …… 263	22,28(5),34			〈OL〉 pp. 9-38 pp. 257-263 (ébauches)
31	1933・11月	「戦争についての考察」(Réflexions sur la guerre)	G n° 10, pp. 153-158[23]	230,232(2),234,239	229,232,234,235(7),236(2),237				〈EHP〉 pp. 229-239
32	1933・11月	「レーニン著『唯物論と経験批判論』について」(Sur le livre de LENINE《Matérialisme et Empiriocriticisme》	G n° 10, pp. 182-185	…… 264	47,50	45			〈OL〉 pp. 45-54 p. 264 (ébauche)
33	1933・12月	「革命戦争についての断片」(Fragment sur la guerre révolutionnaire)		241	241(2)				〈EHP〉 pp. 240-241
34	1933・12月～1934初	「ボイコットについてさらに一言（断片）」(Encore quelques mots sur le boycottage (fragments))							〈EHP〉 pp. 242-243
35	1933～1938	「断片」(Fragments)		163					〈OL〉 pp. 163-177
36	1934・3月	「十四世紀フィレンツェにおけるプロレタリアの蜂起」(Un soulèvement prolétarien à Florence au XIVe siècle)	G n° 11, pp. 225-228	91,94(2),95,96,97,100(3)	85(2),86,88,89,90(2),91(3),98,99(3)	89,91,94,96		101	〈EHP〉 pp. 85-101

	年代	作品名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
37	1934・春	「X氏宛の手紙の断片」(Fragment de lettre à X)							〈CO〉 pp. 33-34
38	1934・後半	「自由と社会的抑圧との諸原因についての考察」(Réflexions sur les causes de la liberté et de l'opression sociale)		59,61(2),62(3),64(4),65(4),66(2),69,70,73,76,78,80,81(2),85,88(6),89,93,95,97(2),100,101(3),105(3),106(5),107,108(3),109(2),110,112(3),121,127,129(2),130(5),136,143,147,155(3),157,160 …… 266(2),267(2),270	63,75,78,83,85,90,91(2),92(5),93(4),94(3),95(5),96(2),97(3),98(5),99(7),100(6),101(7),102,103(5),105(3),106,109,112,127,135,136,141,143,146,149(2),152(2),153,157(6) …… 267,269,270(5)	61(2),62,78,80(2),89,90(2),91(3),92,93(2),98,100,106,109(2),117(2),126,127,128,129(2),130,131,136,137(2),141(3),146,150,151(2),152,154,155,157 …… 268(2)		65,96,117(2),129,145	〈OL〉 pp. 55-162 pp. 265-271 (plan, ébauche)
39	1934・12月	「一女生徒への手紙」(Lettre à une élève)		24					〈CO〉 pp. 23-27
40	1934	「服従と自由についての省察」(Méditation sur l'obéissance et la liberté)		187(2),188,189(2),192(3)		189,191		193	〈OL〉 pp. 186-193
41	1934〜1935	「工場日記」(Journal d'Usine)		73(2),74,82,92,98,102,107		94(3)			〈CO〉 pp. 35-108
42	1935・1月	「テヴノン夫人宛の3通の手紙」(Trois lettres à Albertine THEVENON)[24]		20					〈CO〉 pp. 15-22
43	1935・4・12	「ボリス・スヴァリーヌへの手紙」(Lettre à Boris SOUVARINE)		29					〈CO〉 pp. 29-31

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
44	1935	「アランの手紙への回答」(Réponse à une lettre d'ALAIN)							〈SS〉 pp. 111-116
45	1935〜1936	「断片」(Fragments)		110(2),124	120(3)	114(2)			〈CO〉 pp. 109-124
46	1936・1・13	「M. ベルナールへの手紙または，ある技師長への手紙〔I〕」(Lettre à M. BERNARD. ou Lettre à un ingénieur directeur d'Usine〔I〕[25]		126					〈CO〉 pp. 125-132
47	1936・1・31	「M. ベルナールへの手紙〔II〕」(Lettre à M. BERNARD〔II〕)		133					〈CO〉 pp. 132-135
48	1936・3・3	「M. ベルナールへの手紙〔III〕」(Lettre à M. BERNARD〔III〕)		137(4),140	138,142	140			〈CO〉 pp. 135-143
49	1936・3・16	「M. ベルナールへの手紙〔IV〕」(Lettre à M. BERNARD〔IV〕)		144(2)	146	144,145(2), 146(2)			〈CO〉 pp. 143-147
50	1936・3・30	「M. ベルナールへの手紙〔V〕」(Lettre à M. BERNARD〔V〕)		147					〈CO〉 pp. 147-149
51	1936・4月	「M. ベルナールへの手紙〔VI〕」(Lettre à M. BERNARD〔VI〕)			151	150(2)		151	〈CO〉 pp. 149-152
52	1936・4月	「M. ベルナールへの手紙〔VII〕」(Lettre à M. BERNARD〔VII〕)							〈CO〉 pp. 152-153
53	1936・4月末-5月初	「M. ベルナールへの手紙〔VIII〕」(Lettre à M. BERNARD〔VIII〕)							〈CO〉 pp. 153-154
54	1936・5月初	「M. ベルナールへの手紙（断片）〔IX〕」(Lettre à M. BERNARD (fragment)〔IX〕)							〈CO〉 pp. 155-156
55	1936・5・15	「アンティゴネー」(ANTIGONE)	P	62	58(2)	60			〈SG〉 pp. 57-62
56	1936・5・16	「アランの問いに答える」(Réponse à une guestion				245,246			〈EHP〉 pp. 244-247

	年代	作品名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
		d'ALAIN)							〈EHP〉 pp. 396-397[26]
57	1936・5・16	「名誉と国家の威信に関する諸考察」(Quelques réflexions concernant l'honneur et la dignité nationale)				394(3)			〈EHP〉 pp. 394-395
58	1936・5月	「エレクトル」(ELECTRE)		63(2),65(2), 66				63	〈SG〉 pp. 63-72
59	1936・5月末-6月初	「M. ベルナールへの手紙〔X〕」(Lettre à M. BERNARD〔X〕)							〈CO〉 pp. 156-157
60	1936・6・4	「一組合員への公開状」(Lettre ouverte à un Syndiqué)		175(2),176, 177,178(2)					〈CO〉 pp. 175-179
61	1936・6・10	「M. ベルナールへの手紙〔XI〕」(Lettre à M. BERNARD〔XI〕)							〈CO〉 p. 157
62	1936・6・10	「女子精錬工の生活とストライキ」(La vie et la grève des ouvrières métallos)	E n° 224, pp. 4-8	163,166, 168,169, 171,172	168,169, 171(2),172, 173				〈CO〉 pp. 161-174
63	1936・6月後半	「M. ベルナールへの手紙〔XII〕」(Lettre à M. BERNARD〔XII〕)		159(2)					〈CO〉 pp. 158-159
64	1936・8月以降	「スペイン日記」(Journal d'Espagne)		214,215	209				〈EHP〉 pp. 209-216
65	1936・10・27	「軍靴を磨いておくべきか」(Faut-il graisser les godillots?)	Q n° 44-45, p. 15			248			〈EHP〉 pp. 248-249
66	1936・11月	「中立政策と相互援助」(La politique de neutralité et l'assistance mutuelle)		251(2)					〈EHP〉 pp. 250-251
67	1936・11月	「一般化された不介入政策」(Non-intervention généralisée)		254	253				〈EHP〉 pp. 252-255
68	1936・11月	「嫌われるための考察」(Réflexions pour déplaire)			218(2),219, 392				〈EHP〉 pp. 218-219 pp. 392-393[27]

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
69	1936	「断片」(Fragment)							〈EHP〉 p. 217
70	1936後半〜1937	「オーギュスト・ドトゥフへの手紙」(Lettre à Auguste DETŒUF)		182,184(2)					〈CO〉 pp. 181-184
71	1936後半〜1937	「オーギュスト・ドトゥフへの手紙」(Lette à Auguste DETŒUF)		186(5)					〈CO〉 pp. 185-187
72	1937・2・10	「モロッコ，あるいは飛行制限に関する命令」(Le Maroc ou la prescription en matière de vol)	Q n° 48-49, pp. 28-29	332,335(2)	333(3)	332(3),333, 334			〈EHP〉 pp. 331-335
73	1937・2・23	〈講演〉演題「合理化」(La rationalisation)		215(4),224, 226(2), 231(2)	220,230	217,230			〈CO〉 pp. 215-232
74	1937・3・25	「チュニジアの流血」(Le sang coule en Tunisie)	I n° 33, pp. 75-76	337	336		336		〈EHP〉 pp. 336-338
75	1937・4・1	「トロイア戦争を繰りかえすまい」(Ne recommençons pas la guerre de Troie)	R n° 2, pp. 8-10	257,271, 272	264,265, 269,270(1), 271(3)	256,259, 265,266(2), 271(2)		263	〈EHP〉 pp. 256-272
76	1937・4・15	「トロイア戦争を繰りかえすまい〔続〕」(Ne recommençons pas la guerre de Troie〔suite〕)	R n° 3, pp. 15-19						
77	1937・春	「一男生徒への手紙の断片」(Fragment d'une lettre à un étudiant)		120		120			〈SS〉 pp. 117-120
78	1937・9・30	「労働の条件」(La condition ouvrière)							〈CO〉 pp. 233-239
79	1937・12・15	「オーギュスト・ドトゥフへの手紙」(Lettre à Auguste DETŒUF)	R n° 16, pp. 4-5						〈CO〉 pp. 188-195[28]

	年代	作品名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
80	1937	「プロメテ」(PROMETHEE)							〈VS〉 pp. 22-24
81	1937	「北部鉄道紛争から得られる教訓についての覚書」(Remarques sur les enseignements à tirer des conflits au nord)		199,200, 202	197,199(2), 200(3),201, 202,203	204			〈CO〉 pp. 197-205
82	1937	「企業における新しい内部体制のための計画の諸原則」(Principes d'un projet pour un régime intérieur nouveau dans les entreprises industrielles)		209	209(2),210, 211(2)				〈CO〉 pp. 207-213
83	1937	「ある屍に関する省察」(Méditations sur un cadavre)		326 403(2),404(2), 406(2),407(2)	324,325 403(3),404(2), 405(2),406(3), 407	406		327 405	〈EHP〉 pp. 324-327 pp. 403-407[30]
84	1937	「進歩と生産(断片)」(Progrès et production (fragment))							〈EHP〉 pp. 398-399
85	1937	「経済学に関する若干の省察」(Quelques méditations concernant l'économique)[29]		320	320			321,322(2)	〈EHP〉 pp. 319-323 pp. 400-402
86	1938・3・10	「祖国のこの痙攣する手足」(Ces membres palpitants de la Patrie)	Q n° 63, pp. 18-20		349,350				〈EHP〉 pp. 344-350
87	1938・5・25	「チェコスロヴァキアのためにヨーロッパは戦うべきか」(L'Europe en guerre pour la Tchécoslovaquie?)	I n° 58, pp. 149-151	273,275(3), 276,277	277	276			〈EHP〉 pp. 273-278
88	1938・5月	「ジョルジュ・ベルナノスへの手紙」(Lettre à Georges BERNANOS)		222,223					〈EHP〉 pp. 220-224
89	1938・12月	「フランス帝国の植民地問題の新たな諸与件」(Les nouvelles données du problème colonial dans l'Empire français)	S n° 2-3, pp. 6-7	351(2),353(3), 354 …… 408(2),409(2)	355	352,354(2), 355 …… 408(2)			〈EHP〉 pp. 351-356 pp. 408-409 (variante)

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
90	1938	「断片」(Fragments)		357(3) 360		357			〈EHP〉 pp. 357-358 pp. 359-360
91	1938	「ある一日に」(A un jour)							〈VS〉 pp. 25-30
92	1938	「G. ベルジュリへの手紙」(Lettre à G. BERGERY)		285,286(2),287,289	285	287,288			〈EHP〉 pp. 283-289
93	1938	「ブウシエの講演についての考察」(Réflexions sur la conférence de BOUCHE)		281					〈EHP〉 pp. 279-282
94	1938	「反フランス陰謀の罪は誰にあるか」(Qui est coupable des menées antifrançais?)		340(2),342	341(2),343				〈EHP〉 pp. 339-343
95	1938か 1939	「手紙草稿」(Ebauches de lettres)		108(2),109(2),113	110,111,114(2),115(4)	104		107,108(2),109,110	〈EHP〉 pp. 102-116
96	1939・ 7・1	「ローマとアルバニア」(Rome et l'Albanie)	R n° 48, p. 24						〈EHP〉 pp. 61-62
97	1939・ 9月後半	「歴史の小さな点(「ル・タン」紙編集長への手紙)」(Un petit point d'histoire (Lettre au Temps))[31]							〈EHP〉 pp. 381-382
98	1939	「野蛮についての考察」(Réflexions sur la barbarie)		64(2),65	64	63(2)		64	〈EHP〉 pp. 63-65
99	1939	「わたしたちの時代の混乱」(Désarroi de notre temps)							〈EHP〉 pp. 290-291
100	1939	「ある決算のための考察」(Réflexions en vue d'un bilan)	T n° 24, pp. 20-29	296,297,300(2),304,305,306,309(2),310,311(2)	303,307(2),310(3),311(2)	299,304,306,309		310	〈EHP〉 pp. 296-312
101	1939	「断片」(Fragment)			293	293(3)		295(4)	〈EHP〉 pp. 292-294

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
102	1939	「断片」(Fragment)		312		312		313(2)	〈EHP〉 pp. 313-314
103	1939末か 1940	「ジャン・ジロドゥーへの手紙」(Lettre à Jean GIRAUDOUX)		363					〈EHP〉 pp. 361-363
104	1940・1・1	「ヒットラー主義の起源に関する若干の考察〔I〕ヒットラーと古代ローマの対外政策」(Réflexions sur les origines de l'hitlérisme. 〔I〕 Hitler et la politique extérieure de la Rome antique)[32]	R n° 53, pp. 14-21	18(2),22,27,28,30,33,34(2),35,36(2),37(3),38(4),41(2),43,45,46,48(2),50,53(2),54,58,59(4)	12,13,15,16,20,24,27,35,36,37,39,43,47,48(2),50,51,56(3),57(3),58(2),59	11,12,16,18,19,20,26,27,33,37,38,39,42,46,58		16,38,40,41,43,46,51(2),52(2),53(2)	〈EHP〉 pp. 11-60
105	1940・1・23	「デオダ・ロッシエへの手紙」(Lettre à Déodat ROCHE)				63			〈PSO〉 pp. 63-68
106	1940・1月-4月	「アンドレ・ヴェーユへの手紙」(Lettre à André WEIL)		248		216,226		226,242	〈SS〉 pp. 211-257
107	1940・6月	「断片」(Fragment)		315					〈EHP〉 p. 315
108	1940・9月	「救われたヴエネチア」(Venise sauvée)[33]			50,53,66(2),110,115	56(2),58,59,65,77,102,111	66	44	〈VS〉 pp. 41-134
109	1940・12月	「イーリアスあるいは力の詩」(L'Illiade ou le poème de la force)	L n° 230, pp. 561-574[34]	11(4),13,18(2),19(3),21,22(4),24,25(2),26(2),27,29,32(4),33(4),38,39(2),40(2),41,42(3)	13(2),15,18,21,23,32	22,28		23,26,39,40	〈SG〉 pp. 11-42
110	1940	「ノート」(Cahiers)[35]							〈CI〉[36] pp. 9-295 〈CII〉[37] pp. 11-339 〈CIII〉[38] pp. 11-292

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
111	1941・秋	「〈主の祈り〉について」(A propos du《Pater》)		226	216(2),221,225,226	218		227	〈AD〉pp. 214-228
112	1941	「奴隷的でない労働の第一条件」(Condition première d'un travail non servile)	U n° 4 (1947年), pp. 525-534	262,267		263	267(2)	268,269	〈CO〉pp. 261-273
113	1941	「プラトンにおける神」(Dieu dans PLATON)		89,120	92(2),109	81,90		81(2),91,92,95,113,120,124,125,126,127,130,133	〈SG〉pp. 77-136
114	1941	「ヘラクレイトスにおける神」(Dieu dans HERACLITE)							〈SG〉pp. 159-160
115	1941・11月～1942・5月	「神の降臨」(Descente de Dieu)							〈IP〉[39] pp. 9-171
116	1941・11月～1942・5月	「ギリシア科学史素描」(Esquisse d'une histoire de la science grecque)		179(2)				174	〈IP〉pp. 173-180
117	1941～1942春	「ゼウスとプロメテウス」(ZEUS et PROMETHEE)			44				〈SG〉pp. 43-46
118	同　上	「キリスト教と農耕生活」(Le christianisme et la vie des champs)			32(2)				〈PSO〉pp. 21-33
119	同　上	「神の愛についての考察」(Réflexions sans ordre sur l'amour de Dieu)		42(2)					〈PSO〉pp. 35-45
120	同　上	「イスラエルと異教徒」(Israël et les gentils)		57		48(2),49(2),55(2),56,60		54(2),59,60(2)	〈PSO〉pp. 47-62
121	1941～1942	「星たちに」(Aux Astres)							〈VS〉p. 34
122	同　上	「海」(La mer)				31			〈VS〉pp. 31-32

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
123	同　上	「扉」La (Porte)							〈VS〉 pp. 35-36 〈PSO〉 pp. 11-12
124	同　上	「必然」(Nécessité)	L n°284(1947)年, p. 566						〈VS〉 p. 33
125	1942・1・19	「ペラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN)						17(2)	〈AD〉 pp. 13-22
126	1942・1月末	「ペラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN)				25,28			〈AD〉 pp. 23-29
127	1942・4・16	「ペラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN)							〈AD〉 pp. 30-33
128	1942・5・12	「ジョー・ブスケへの手紙」(Lettre à Joe BOUSQUET)[41]			77,78	74	78		〈PSO〉 pp. 73-84
129	1942・5・15	「ペラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN)		58	47(3),51, 59(2),60	48		39,43,44, 48	〈AD〉 pp. 35-62
130	1942・5・16-5・25	「ペラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN)							〈AD〉 pp. 63-67
131	1942・5・26	「ペラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN)			72(2),73			77(5)	〈AD〉 pp. 68-84
132	1942・春	「科学の未来」(L'Avenir de la science)	L n° 245, pp. 303-308		179	180			〈SS〉 pp. 177-185
133	同　上	「神への愛のために学校の勉強を活用することについての考察」(Réflexions sur le bon usage des études scolaires en vue de l'Amour de Dieu)		90,93	85,86,89, 95			89,96	〈AD〉 pp. 85-97
134	同　上	「神への愛と不幸」(L'Amour de Dieu et le malheur)							〈AD〉 pp. 98-121 〈PSO〉

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
				104 118,124	102	88 112	90,96,97(2) 116	93,95(3), 96,101 112,122	pp. 85-105 pp. 107-131[42]
135	同　上	「はっきり意識しない神への愛の諸形態」(Formes de l'Amour implicite de Dieu)		123,128, 129(3),130, 134,139, 174,175, 191,199, 204	127,128(2), 130,131(2), 132,133, 135,137, 138,139, 145,146, 147(2), 157(2), 158,159, 214	127,135, 141,145		123,124, 126(2), 129(3), 130(4),134, 140(2),171, 176(4),177, 179,180, 181,182(2), 194(2),197, 204,205	〈AD〉 pp. 122-214
136	同　上	「ノアの三人の息子と地中海文明史」(Les trois fils de Noé et l'histoire de la civilisation méditerranéenne)			242	238		236	〈AD〉 pp. 228-246
137	同　上	「質問書」(Questionnaire)							〈PSO〉 pp. 69-72
138	1942・ 5月-11月	「アメリカ・ノート」(Cahiers d'Amérique)[44]							〈CS〉[45] pp. 11-302
139	1942・ 7月	「工場生活に関する考察」(Réflexions sur la vie d'usine)[43]	V n° 2, pp. 187-204	245,249	246		249		〈CO〉 pp. 241-259
140	1942・ 7月	「モーリス・シューマンへの手紙」(Lettre à Maurice SCHUMANN)		191,204, 206,207, 210	207,210	192		209	〈EL〉 pp. 185-215[46]
141	1942・ 10月	「オク語文明の霊感は何にあるか」(En quoi consiste l'inspiration occitanienne)	L n° 249 pp. 150-158	79(4),80(6), 81(2),82(4), 83(3)		81,82,83		81	〈EHP〉 pp. 75-84
142	1942・ 10月	「ある叙事詩をとおしてみた一文明の苦悩」(L'agonie d'une civilisation vue à travers un poème épique)	L n° 249, pp. 99-107	68(2),71, 74(2)	71(2)				〈EHP〉 pp. 66-74
143	1942・	「ある修道者への手紙」(Lettre		36,70	53,66	12,28,45		11,15(3)	〈LR〉

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
	.11・10	à un religieux)						26,30,37,50,61(3),68,73	pp. 7-92
144	1942・11月末以降	「ロンドンで書かれた覚書」(Notes écrites à Londres)							〈CS〉pp. 303-338
145	1942・12・16	「両親への手紙」(Lettre à ses parents)[48]		238	223			221	〈EL〉pp. 218-257
146	1942・12月	「根をもつこと」(L'enracinement)							〈E〉[47] pp. 9-256
147	同　上	「量子論についての考察」(Réflexions à propos de la théorie des Quanta)	L n° 261, pp. 102-119	189,190(5),201(2),208(2)					〈SS〉pp. 187-209
148	同　上	「クレアンテス，ペレキュデス，アナクシマンドロスおよびピロラオスについての覚書」(Notes sur CLEANTHE, PHERECYDE, ANAXIMANDRE, et PHILOLAOS)		169					〈SG〉pp. 161-172
149	1942	「科学とわたしたち」(La science et nous)[40]		126,127(3),128,136(2),145,148(2) 264	128,146 262(2)	170		135,137,174(2)	〈SS〉pp. 121-176 〈SS〉pp. 261-268
150	1942	「エレクトラの嘆きとオレステスの感謝」(Plaintes d'Electre et reconnaissance d'Oreste)							〈SG〉pp. 47-55
151	1942	「神への愛雑感」(Pensées sans ordre concernant l'amour de Dieu)		19	13,19(2)	17	17(2),19		〈PSO〉pp. 13-20
152	1942・11月末～1943・4月	「マルクス主義学説は存在するか」(Y a-t-il une doctrine marxiste?)		226(4),228,229,232,233,234(2),235,242(2),246(4),247(3),249,250,252(8),253(7)	242(3),252(2)	227(2),236,239,241(3),242	231,234	243,249	〈OL〉pp. 221-254

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
153	同　上	「人格と聖なるもの」(La personne et le sacré)		19(2),22,23(2),24(4),27	14,15(2),27,38,39(2),42(2)		24(2)	21,23,31,42(2)	〈EL〉pp. 11-44
154	同　上	「わたしたちは正義のために戦うのか」(Luttons-nous pour la Justice?)	T n° 28, pp. 3-9	46(2),47	45,46,48(2),50	48		56	〈EL〉pp. 45-57
155	同　上	「臨時政府の正統性」(Légitimité du gouvernement provisoire)		66	64,66(2),68(2),69,70(4),71(3),72	72		58(2),59,65,67	〈EL〉pp. 58-73
156	同　上	「人間の義務に関する宣言のための習作」(Etude pour une déclaration des obligations envers l'être humain)		77,82	75(4),78(2),79(3),80,81,82(2),84(2)				〈EL〉pp. 74-84
157	同　上	「新しい憲法草案についての考え」(Remarques sur le nouveau projet de Constitution)		86(2)	87(6),88,89,90,91(3),92(2)				〈EL〉pp. 85-92
158	同　上	「新憲法のための根本的理念」(Idées essentielles pour une nouvelle Constitution)			93(4),95,96(3),97(5)				〈EL〉pp. 93-97
159	同　上	「この戦争は宗教戦争である」(Cette guerre est une guerre de religions)[49]		99(2),106(4)		98,106		100,104,105(2),108	〈EL〉pp. 98-108
160	同　上	「反抗についての考察」(Réflexions sur la révolte)		115	120(3)	114		119	〈EL〉pp. 109-125
161	同　上	「政党の全面的解消についての覚書」(Note sur la suppression générale des partis politiques)	W n° 26 (1950年), pp. 9-28	128,130	126,127,132,134(3),139,146	129,134(2)		141,146	〈EL〉pp. 126-148
162	同　上	「フランス国民の運命との関連における植民地問題について」(A propos de la question coloniale, dans ses rapports avec le destin du peuple français)		364,367(2),375	367	370,373,376,378			〈EHP〉pp. 364-378

	年　代	作　品　名	初出機関	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
164	1943・4・17	「アンドレ・ヴェーユへの手紙」(Lettre à son frère)							〈EL〉 pp. 216-217
163	1943	「断片」(Fragment)		205,206, 207(3),208(7), 209(5),210(2), 211(2),212(3), 214,215, 216(2),217, 218(2),219(2)	208(3),214, 216,218	213,217	218(3)	218	〈OL〉 pp. 205-220

(C)

単行本に組み入れられているが，発表日付け不詳で，私的推測を試みるしかない論稿その他の年代順表

	年　代	作　品　名	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
1	1933・10月～1934・6月	「哲学講義」(Leçons de philosophie)[50]						〈LP〉[51] pp. 17-305
2	1934後半	「革命と進歩との観念の批判的検討」(Examen critique des idées de révolution et de progrès)[52]	181	184(4)	181			〈OL〉 pp. 178-185
3	1940末～1942・11月	プラトン研究 「テアイテトスについて」(Sur le THEETETE) 「パイドロスについて」(Sur le PHEDRE) 「パイドロスと饗宴について」(Sur le PHEDRE et le Banquet) 「パイドロス抄」(Extraits du PHEDRE) 「国家について」(Sur la République)	142,143(3)		143			〈SG〉 pp. 137-148[53] pp. 137-138 p. 139 p. 141 pp. 145-146 pp. 147-148
4	1941～1942	「新科学の基礎について」(Du Fondement d'une science nouvelle)	281(2),284(3)		277			〈SS〉 pp. 275-284[54]
5	同　上	「波動力学について」(A propos de la mécanique ondulatoire)						〈SS〉 pp. 269-270

	年　代	作　品　名	force	pouvoir	puissance	pesanteur	vertu	単行本タイトル略号文字
6	1942・7月以降	「プロローグ」(Prologue)						〈CS〉 pp. 9-10
7	1942・11月以降	「断片」(Fragment)	156	158,166, 176(2),177	156,164,179		158,166,179	〈EL〉 pp. 151-182
8	1943・4月以前	「マルクス主義の矛盾について」(Sur les contradictions du marxisme)	195,198	196,204	203(2)			〈OL〉 pp. 194-204
9	同　上	「秘蹟の理論」(Théorie des sacrements)					138(2),139(2)	〈PSO〉 pp. 133-145
10	同　上	「最後のテキスト」(Dernier Texte)		150				〈PSO〉 pp. 149-153

表の見方は以下のとおりである。

(1) 単行本タイトル略号文字は註(1)に記してあるが，ここでも取り上げておく。

〈E〉 L'enracinement (「根をもつこと」)
〈AD〉 Attente de Dieu (「神を待ち望む」)
〈CS〉 La connaissance surnaturelle (「超自然的認識」)
〈LR〉 Lettre à un religieux (「ある修道者への手紙」)
〈IP〉 Intuitions préchrétiennes (「前キリスト教的直観」)
〈CO〉 La condition ouvrière (「労働の条件」)
〈CI〉 Cahiers I (「ノート」I)
〈CII〉 Cahiers II (「ノート」II)
〈SG〉 La source grecque (「ギリシアの泉」)
〈OL〉 Oppression et liberté (「抑圧と自由」)
〈VS〉 Venise Sauvée (「救われたヴェネチア」)
〈CIII〉 CahiersIII (「ノート」III)
〈EL〉 Ecrits de Londres et dernières lettres (「ロンドン雑記と最後の手紙」)
〈LP〉 Leçons de philosophie (「哲学講義」)
〈EHP〉 Ecrits historiques et politiques (「歴史政治論集」)
〈PSO〉 Pensée sans ordre concernant l'amour de Dieu (「神への愛雑感」)
〈SS〉 Sur la science (「科学について」)

(2) 初出機関の欄の記号は次の各社をあらわす。

A. リーブル・プロポ誌 (Libres propos)
B. オート＝ロワール地区報 (Bulletin de la Section de la Haute-Loire)
C. レフォール紙 (L'Effort)
D. ラ・トリビュヌ紙 (La Tribune)
E. ラ・レヴォリュション・プロレタリエンヌ誌 (La Révolution prolétarienne)
F. ル・トラヴァイユール・ド・ランセニュマン誌 (Le Travailleur de l'Enseignement)
G. ラ・クリティック・ソシアル誌 (La Critique Sociale)
H. カイエ・ド・テール・リーブル誌 (Cahiers de 《Terre Libre》)
I. フィユ・リーブル・ド・ラ・キャンゼーヌ紙 (Feuilles Libres de la Quinzaine)
J. ル・リベルテール誌 (Le Libertaire)
K. サンディカ紙 (Syndicats)
L. カイエ・デュ・シュド誌 (Cahiers du Sud)
M. レ・ゼテュド・フィロゾフィック誌 (Les Etudes Philosophique)
N. イル・ポント誌 (Il Ponte)
O. レコール・エマンシペ誌 (L'Ecole, Emancipée)
P. アントル・ヌ紙 (Entre Nous)
Q. ヴィジランス紙 (Vigilance)
R. ヌヴォー・カイエ誌 (Nouveaux Cahiers)
S. エセー・エ・コンバ誌 (Essais et Combats)
T. プルーヴ誌 (Preuves)
U. ル・シュヴァル・ド・トロワ誌 (Le cheval de Troie)
V. エコノミー・エ・ユマニスム誌 (Economie et Humanisme)
W. ラ・ターブル・ロンド誌 (La Table Ronde)

なお，当欄の n° は号数を，p. ないし pp. は頁数を示す。

(3) B表の「force」「pouvoir」「puissance」「pesanteur」「vertu」と書きこまれた直下にある数字は，表の左記作品名の何頁かを，またその頁数右横に括弧があり，その個所に数字が記入されている場合は，頁における単語の頻度を示す。

(4) 「force」「pouvoir」「puissance」「pesanteur」「vertu」の単語の個所は，17の単行本にわたり，できるかぎり見落としのないようにこころがけたつもりである。しかし，果して個々の単語がジャック・カボーの引用文(8)のいう「力」の意味をもつかどうかの確認は，特に，その「pesanteur」の判断や，わたしの主張にそくした「vertu」の具体的検討とあわせ，「力」に関するノート(II) 以降の拙稿でおこない，ここでは割愛する。ただし，à force de, sans pouvoir, en puissance, en vertu de の熟語や助動詞としての pouvoir などは，当然最初から除外してある。

(5) 作品のうち，何年とだけ記入してあるものは，その年の作品を意味し，該当年の最後に配置させるようにした。

(6) 全体の作品順は，おおよそA・B・C表を照らし合わすことで完成する。この「力」という単語の書き抜きだけにすぎないが，しかし照合させる作業において，その近辺にある，単行本に組み入れられていないA表の作品の内容と傾向を推量することが可能になるかもしれない。単行本にない作品の入手の機会を望む，わたしにとって，作品名を年代にしたがって書きこむ作業は，今回の単語の頻度を知る調査にとどまらず，そうした作品を手にしたときの使用をは

じめとしての，今後の多方面な研究において，この表を活用させることをもねらいにしている。

(7) A・B・C表作成のために，初出機関の号やその頁数ならびに作品名は，もっぱら，Michel THIOUT : Jalon sur la route de Simone WEIL II Essai de bibliographie des écrits de Simone WEIL の私訳にたよったが，それで十分でなかった際は，「シモーヌ・ヴェーユ著作集」V（春秋社），年譜・書誌（pp. 358-378, 渡辺一民氏編），ジャック・カボーの「シモーヌ・ヴェーユ伝」（みすず書房），書誌（vii-xxiii, 山崎庸一郎氏，中条忍氏訳）を，資料として参考させていただいたことを付記しておく。

(8) 頁数が表に書き表わしきれない場合は，註を利用して記入した。

A・B・Cの表のうち，さしあたって，わたしたちに必要な表は(B)である。その(B)によって，何を知るのか。まず，今回は紙数も大部になるので，力をみる視点のみを述べるにとどめることにするが，しかしここにきて，活動家や宗教者という，個々の側面をさす肩書だけは，シモーヌ・ヴェーユから取りはずすことができそうである。授業テキストである「哲学講義」，(C)表の1[51]をみよ。そこでは，この肩書のみで彼女を呼ぶのは無意味になる。「vertu」の語の多くの使用がみられるかぎり，後半生の特徴がおよそ全生涯にわたってみられると捉えられないか。宗教的な意味を含んだこの語から，彼女は後半生の特徴ある人と位置づけられる，すなわち彼女は宗教者として理解される。しかしそれも彼女をあやまって捉えることになろう。宗教者の意味する肩書に固執できない思想をもつ彼女は，その思想の体系化を試みることがなかったが，思想を生きるという遺産を残した。それは体系的理論を構築する能力の理性や知性の必要性以上に，思想の現実化のためには，彼女のそれ以外の能力が活動させられるよう，彼女がその能力を自己の身体とかかわらせたことにある。だから強いていえば，それを体現させた彼女は実践的哲学者だといえるだろう。

シモーヌ・ヴェーユの，この思想を実現させる実践とは，どこに向けられたものなのかが，わたしたちのもっとも知りたいことのうちのひとつになってくる。彼女の工場体験やスペイン戦争参加がここでいう実践になるのではない。人間にとって未知な，最高の境地といわれるところ（神の領域）に達し得た実践を知ることである。どのようにして神と接触することができるのか。そのことをわたしたちが実際に体験することこそ真の生にかかわるのであって，その過程をペンでたどることはむなしい現実を残すだけであるが，しかしそれでも，この跡付けをしないことにはその思想すら明らかにされず，実践も伴うはずがないのだ。

神との接触を可能にする跡付けの概略説明の事項として，わたしは一方で，前述した，理性や知性以外の能力，つまり感情または感受性と，身体をあげることができる。こうした関係[55]を生みだす原因に力の影響力があって，それが人間を神へと接近させると思う。力の存在ゆえに，人間は最高の境地に達し得るとすれば，彼女が理解するこの力こそ，人間をその実践にかりたたせる出発点にある思想となる。それをこの表を手はじめに問うことが，わたしたちに課せられる。

その人間の問いは，古代ギリシアからの問いでもあった。シモーヌ・ヴェーユの作品である「イーリアスあるいは力の詩」はこうした問いかけをわたしたちに迫るものであろう。したがってその解釈と，ギリシア語による「力」にさかのぼっての検討も要求されてくるはずである。あるいはプラトンを経過して生き続けるグノーシス派的な流れのなかにある思想に，おそらく見出されてくる「力」を把握しておくこともまた，必要になってくるであろう。そして，彼女の思想にこれらの思想を導入し研究することは，その理解を早めさせる，とわたしはみるのである。

註

1）単行本のタイトルと刊行年の順序で掲載する。

(1) 『根をもつこと』(L'enracinement), 1949 (Gallimard, 〈タイトル略号文字 E. 以下同じ〉)。

(2) 『神を待ち望む』(Attente de Dieu), 1950 (La Colombe, 〈AD〉)

(3) 『超自然的認識』(La connaissance surnaturelle), 1950 (Gallimard, 〈CS〉)。

(4) 『ある修道者への手紙』(Lettre à un religieux), 1951 (Gallimard, 〈LR〉)。

(5) 『前キリスト教的直観』(Intuitions préchrétiennes), 1951 (La Colombe, 〈IP〉)。

(6) 『労働の条件』(La condition ouvrière), 1951

(Gallimard, 〈CO〉)。

(7) 『ノート』I (Cahiers I), 1951 (plon, 〈CI〉)。

(8) 『ノート』II (Cahiers II), 1953 (plon, 〈CII〉)。

(9) 『ギリシアの泉』(La source grecque), 1953 (Gallimard, 〈SG〉)。

(10) 『抑圧と自由』(Oppression et liberté), 1955 (Gallimard, 〈OL〉)。

(11) 『救われたヴェネチア』(Venise sauvée), 1955 (Gallimard, 〈VS〉)。

(12) 『ノート』III (Cahiers III), 1956 (plon, 〈CIII〉)。

(13) 『ロンドン雑記と最後の手紙』(Ecrits de Londres et dernières lettres), 1957 (Gallimard, 〈EL〉)。

(14) 『哲学講義』(Leçons de philosophie de Simone Weil, présentées par Anne Reynaud), 1959 (plon, 〈LP〉)。

(15) 『歴史政治論集』(Ecrits historiques et politiques), 1960 (Gallimard, 〈EHP〉)。

(16) 『神への愛雑感』(Pensées sans ordre concernant l'amour de Dieu), 1962 (Gallimard, 〈PSO〉)。

(17) 『科学について』(Sur la science), 1966 (Gallimard, 〈SS〉)。

ただし，ほかに『重力と恩寵』(La pesanteur et la grâce, 1947, plon) という単行本が刊行されているが，これは(7)(8)(12)のノートの計三冊の抜萃のものであるから，ここでは掲載を省略する。

なお，わたしの所有する，これら単行本の刊行年，出版社は次の通りである。

(1) 1963. Gallimard
(2) 1969. Fayard
(3) 1964. Gallimard
(4) 1963. Gallimard
(5) 1951. Fayard, (初版複製)
(6) 1966. Gallimard
(7) 1970. plon
(8) 1972. plon
(9) 1969. Gallimard
(10) 1967. Gallimard
(11) 1968. Gallimard, (Poèmes『詩』も含む)
(12) 1975. plon
(13) 1957. Gallimard
(14) 1970. Union générale d'édions
(15) 1960. Gallimard
(16) 1968. Gallimard
(17) 1966. Gallimard

この刊行年の順序とタイトル略号文字とは，Michel Thiout : Jalons sur la route de Simone WEIL II, Essai de bibliographe des écrits de Simone WEIL (Archives des lettres modernes, n° 26) を，大木健氏：『シモーヌ・ヴェーユの不幸論』(勁草書房 pp. 248-249) を参照する。

また，これら単行本に加えられている論文やその他のタイトルとタイトル略号文字との出所は主に，これによることを付記しておく。

2) 拙著『シモーヌ・ヴェーユ研究』，第一章 彼女の哲学について pp. 7-42参照 (白馬書房)。

3) Jacques Cabaud : L'expérience vécue de Simone Weil p 9 (plon)。

4) タイトル略号文字 (以下略) 〈CIII〉, p. 193。

5) 〈CI〉, p. 31。

6) 〈CIII〉, p. 179。

7) 〈AD〉, pp. 35-62。
なお，翻訳では『シモーヌ・ヴェーユ著作集』IV, pp. 27-47, 渡辺秀氏訳 (春秋社) と，『神を待ち望む』pp. 31-61, 杉山毅氏訳 (勁草書房) とがある。

8) Jacques Cabaud : L'expérience vécue de Simone Weil p. 217 (plon)。なお，この引用文中，「不幸」と書かれる内容は，シモーヌ・ヴェーユ独自の思想に支えられており，やはりキー・ワードとして把握しなければならないが，これについては，大木健氏の，前述した『シモーヌ・ヴェーユの不幸論』(勁草書房) に詳しいから，それを参照のこと。

9) シモーヌ・ヴェーユのはじめての創作であるが，今日残存しない作品。

10) 1933年7月15日，この抜粋がレフォール紙 (L'Effort), n° 388, p. 3 に掲載される。

11) ラ・レヴォリュション・プロレタリエンヌ宛の手紙も含有されている。

12) この手紙は，ラ・レヴォリュション・プロレタリエンヌ誌（n° 362, p. 17）に掲載されている。

13) この手紙は，フィユ・リーブル・ド・ラ・キャンゼーヌ紙（1936・9・25付，n° 22）に掲載される。

14) これは，B表の「女子精錬工の生活とストライキ」（1936・6・10，ラ・レヴォリュション・プロレタリエンヌ誌）を転載したものである。

15) これは，平和を堅持すべく，ファシストとの交渉を訴えたものである。

16) この手紙は，エテュド・マテリィアリスト（1947・12月，n° 17）に掲載される。

17) カイエ・デュ・シュド誌，1951年 n° 310（pp. 426-430）に掲載される。

18) これは，高等師範学校卒業試験論文である。

19) ラ・レヴォリュション・プロレタリエンヌ誌宛の手紙も含まれている。

20) これは，「待機するドイツ（ドイツの印象）」のタイトル（括弧内）を変更し，このリーブル・プロポ誌に転載されたものである。

21) これは，「ドイツの出来事。ベルリン交通ストライキ，選挙」（1932・11・25）Les événements d'Allemagne. La grève des transports de Berlin. Les élections）として，ラ・レヴォリュション・プロレタリエンヌ誌（n° 40, pp. 11-12）に転載されている。また〈EHP〉には，「ドイツの最近の出来事についての覚書」と題され，「ベルリン交通ストライキの教訓，ドイツの選挙」という同じ小タイトルを付した異稿（variante）が掲載される（pp. 383-385)。なお異稿に見出される「力」も内容が相違する個所で使用されているなら，表に付加しておくことにした。

22) この異稿（variante）（1933）が〈EHP〉pp. 390-391に掲載されている。

23) これは，(1)ル・トラヴァイユール紙（Le Travailleur), (2)リーブル・プロポ誌，(3)ル・リヴェルテール誌にも掲載される。ただし，(1)では，1934・2・3，n° 98, p. 3; 1934・2・4，n° 99, p. 3（続）；1934・2・17，n° 100, p. 3（続）；1934・2・24，n° 101, p. 3（完）の計四回にわたって，(2)では1935・8・31，n° 8, pp. 364-372に，そして(3)では1935・10・4，n° 465, p. 2（補遺）（extraits）として掲載される。

24) テヴノン夫人には1935年1月末をはじめとして，夏に一度，夏から秋にかけて一度手紙をだしている。〈CO〉における，それらに相当するページ数は次のとおり，pp. 15-17, pp. 17-18, pp. 19-22。

25) ここには，「Rの労働者たちへの呼びかけ」（Un appel, aux ouvriers de R）も含むものとする。そのページは〈CO〉pp. 128-132である。

26) 〈EHP〉pp. 396-397 は「アランの質問事項に答える」（Réponse au questionnaire d'Alain）で，pp. 244-247の異稿（variante）である。

27) 後者のページ数は，前者のそれの異稿（variante）である。

28) ただし，pp. 188-195 のうち，pp. 191-195 は，オーギュスト・ドトゥフの返事（Réponse de A. DETŒUF）の手紙のページである。

29) 〈EHP〉は，この論文の異稿を「破産擁護の草案」（Esquisse d'une apologie de la banqueroute）として，pp. 400-402に収録している。

30) 後者のページ数は，前者のそれの pp. 324-327の異稿（variante）である。

31) これは，「ローマとアルバニア」の異稿(variante)である。

32) 〈EHP〉では，この論文の題名は，本文和文タイトルのようになっている。つまり，Quelques réflexions sur l'origine de l'hitlérisme である。ここでは三部構成のものを一挙に掲載している。一部タイトル「国民的性格の恒常性と諸変化（Permanence et changement des caractères nationaux), 二部タイトル「ヒットラーと古代ローマの対外政策（Hitler et la politique extérieure de la Rome antique）三部タイトル「ヒットラーとローマ帝国の国内体制」（Hitler et le régime intérieur de l'Empire romain。

33) この時期には，特に Venise sauvée のⅢ幕（acte Ⅲ）の創作に没頭しているが，とにかく終幕の草稿にかかっていたということで，一応この時期で完成をみると判断しておく。

34) はじめ，ラ・ヌーヴェル・ルヴュ・フランセーズ誌（La Nouvelle Revue Française）に「イーリアス論」として掲載予定であったが，敗戦のためパリで発表することができなくなった。カイエ・デュ・シュド誌にはエミール・ノヴイス（Emile NOVIS）の筆名で投稿。また1941年1月，この続論がカイエ・デュ・シュド誌 n° 231, pp. 21-34 に発表され

ているが，ここでは一括してページ数を掲げておく。

35）この時期（1940年）より，のちに単行本三冊としてまとめられる大部のノートを，シモーヌ・ヴェーニはアメリカにいくために，1941年10月25日，ティボンにわたすことになる。ここではその三冊を一括して記入しておく。

36）〈CⅠ〉にみられる「力」の頻度

force： 17(2), 22, 23, 26, 29(4), 32(4), 61, 85(2), 99, 100, 102, 109, 112(3), 113(3), 115, 127, 131, 133(2), 134, 136, 141(2), 146, 151(3), 166, 171, 191, 193(2), 195, 208, 212, 214, 216, 221, 222(2), 223(2), 240, 243(3), 245(4), 246(7), 251(2), 253, 255, 263, 265(2), 266(2), 268, 273

pouvoir： 12(2), 14(2), 20, 25(3), 26, 41, 42, 74, 75, 82(2), 84, 96(4), 107, 109(2), 131, 133(2), 152(2), 161, 173, 189, 210, 221, 252, 267

puissance： 12, 25, 26, 27, 31, 32, 33(2), 39, 41, 42, 68, 79, 80, 87, 111(2), 177, 207, 215(2), 223(2), 227, 237(2), 238, 243(2)

pesanteur： 170, 173, 188(2), 189(10), 190, 191, 202, 213, 220, 240, 243(2), 246, 254, 259(3), 260(3), 267, 269, 270(4), 271(5), 272, 274

vertu： 63, 70, 96, 112(3), 113, 129(7), 141, 222, 225, 236(4), 237(4), 238(2), 240, 243(2), 246(2), 253(2), 255, 265(2), 266(2), 272

37）〈CⅡ〉にみられる「力」の頻度

force： 12(4), 16(2), 20, 23, 25, 27, 29, 35, 36, 45(2), 50, 54, 61, 62(6), 64, 67, 75, 80(3), 82, 89, 99, 104, 105, 119, 120, 127, 128, 150(2), 174, 177, 202, 207, 222, 232, 234, 257, 260, 261, 285, 308, 317, 331(5), 338(5)

pouvoir：33(2), 55, 57, 63(2), 79, 81, 101, 107, 108, 114, 115, 158, 174, 178, 191, 203, 220, 245, 246(2), 253, 255, 259, 294, 295(2), 297

puissance：45, 67, 81, 96, 109, 123, 140, 152, 168, 218, 232, 272, 302, 306, 311(2), 332, 333(3)

pesanteur： 12, 14, 15, 19, 20(3), 22, 23(7), 24(2), 28(5), 30(2), 34(3), 60, 61, 62(5), 67, 73, 90(2), 105, 108, 109(2), 151, 166, 181, 185, 230, 232, 302(3), 306

vertu：13, 19, 34, 64, 82(2), 88, 91, 107, 116, 122, 124, 133, 139, 144(2), 152, 153, 155, 174(2), 177, 211(3), 226, 239, 249(2), 253, 258(6), 281(2), 284(2), 285, 294, 303, 304, 309(2), 313, 333(2), 338

38）〈CⅢ〉にみられる「力」の頻度

force：12, 69, 76(6), 77(2), 87(2), 88(5), 89(3), 93(2), 100, 104, 113(3), 114, 116, 117(2), 120, 125(3), 126(6), 128(3), 129, 134(3), 135, 137, 138(3), 141, 142, 152(2), 167(3), 178, 181(5), 182, 183, 190(3), 191(2), 194, 195, 196, 203, 235, 244(2), 247, 252, 264, 269, 272

pouvoir： 48(2), 121, 137, 162, 165, 185, 190, 191, 215, 227, 244, 258, 262,

puissance： 71, 76, 92(2), 97, 98, 121(2), 123, 137, 146, 152, 154, 165, 166(2), 167, 175, 176(2), 178(7), 179(3), 186, 187(2), 193(2), 199(3), 206, 215(2), 230, 231, 232(2), 233(2), 237, 247, 249(2)

pesanteur：21, 34, 35, 57, 77, 87(3), 110, 115, 129, 137, 146(2), 147, 148(2), 157, 167(2), 180, 181(3), 184, 233, 244, 251

vertu： 21(2), 26, 31, 39, 46, 56, 87(2), 115(2), 116(3), 147, 148, 177(2), 226, 252, 279(2)

39）〈IP〉にみられる「力」の頻度

force：52, 53(5), 54(5), 55, 57, 58(3), 60(3), 75, 76, 78, 83, 95, 96, 104(2), 126(2), 136(3), 141, 145, 147(7), 154, 161, 162

pouvoir： 16, 73, 75, 91, 98, 113, 133, 136(2), 137(2), 138(3), 144, 148(2), 154, 156, 158, 168(3)

puissance：14, 43, 53, 54, 59, 76, 103, 115(3), 118(2), 120, 144, 160

pesanteur： 53, 84, 148, 162

vertu： 22, 26, 35, 58(3), 59, 60(2), 61(2), 85, 87(4), 90(3), 92, 120, 135, 145(2), 154, 155, 163

40) この論文の補足として，「ギリシア科学についての夢想」(Rêverie à propos de la Science grecque 〈SS〉 pp. 261-268, 年代不詳) がある。

41) シモーヌ・ヴェーユがジョー・ブスケにだした手紙は1942年5月12日付け以外に2通ある。しかしそれらは単行本に組み入れられていない。この2通は1942年4月13日と1942年4月末または5月初めのものである。

42) 〈PSO〉の pp. 85-105 は〈AD〉と同様であり，pp. 107-131 はこの〈AD〉の続き〔suite〕である。

43) 〈CO〉のタイトルは，「工場生活の経験」(Expérience de la vie d'Usine) と改題される。Emile NOVIS の名で投稿する。

44) これは単行本では「超自然的認識」(La connaissance surnaturelle) となっている。

45) 〈CS〉にみられる「力」の頻度

force : 31, 33, 91, 93, 103, 134, 144, 146, 150, 172, 184, 187(2), 192, 252

pouvoir : 26, 31, 32, 36, 43, 47, 55, 58(2), 59, 72, 79, 80, 85, 92, 120, 128, 131(2), 132, 149, 172, 173(3), 179, 180, 199, 215(3), 220, 264(2), 265(2), 267, 268, 289

puissance : 14, 24, 29, 46(3), 67, 68, 78, 98, 105, 126, 131, 155, 156(2), 171, 195, 220, 246, 262, 264(3), 282(3)

pesanteur : 84, 220

vertu : 37, 46, 47, 50, 58, 74, 77, 96, 97(2), 98, 113, 146, 156, 163, 165(2), 166(3), 206, 209, 226, 233, 234(2), 235, 257, 260, 263, 264(2), 265, 266, 269, 284

46) この日付けの手紙（最初のもの）を含んで四通，シモーヌ・ヴェーユはモーリス・シューマンにだしている。他の3つには日付けがない。第二の手紙には「第一線看護婦部隊編成計画書」(Projet d'une formation d'infirmières de première ligne) が付されている。

47) 〈E〉にみられる「力」の頻度

force : 10, 16(2), 27, 35, 38, 55, 56, 63, 77(2), 90, 98, 99, 113, 114, 119(2), 133, 142, 148, 149, 158, 164(2), 166, 188(4), 189(3), 194, 198, 202, 203(2), 205(5), 206(6), 215(2), 216, 217, 219, 222(2), 228, 241(2), 242(3), 243(4), 244(2), 245, 246(6), 247, 248(2), 249(2)

pouvoir : 19, 23, 25, 31, 34(2), 46, 47, 52, 61, 79, 91, 96(2), 104, 106(2), 107, 108, 111, 122(2), 131, 132, 133, 136, 139, 141, 154, 156(2), 163, 164(2), 166, 170, 183, 186, 187, 198(2), 206(2), 210, 225, 227(3), 236(2)

puissance : 21, 46, 77, 79, 117, 119, 127, 134, 170, 231, 237,

pesanteur : 248(2)

vertu : 92, 110, 123, 124(2), 125, 126(4), 175, 178(3), 179, 180, 186, 195, 196, 199(3), 210, 220, 223, 231, 244(3), 246, 248, 251

48) この日付けをはじめとする手紙は計19回，1942年12月より1943年のシモーヌ・ヴェーユの死間際の分が残存している。むろん，単行本に掲載されない手紙があるのは当然だし，この時期以外にも両親宛にだしていたことはいうまでもなかろう。〈EL〉に組み入れられている手紙の内訳は以下のとおり。

1942・12・31　pp. 220-222
1943・1・18　pp. 222-225
1943・1・22　pp. 225-228
1943・2・1　pp. 228-230
1943・3・1　pp. 230-233
1943・4・17　pp. 233-235
1943・5・10　pp. 235-236
1943・5・22　pp. 236-238
1943・5・31　pp. 238-239
1943・6・9　pp. 239-242
1943・6・15　pp. 242-244
1943・6・25　pp. 244-246
1943・7・5　pp. 246-248
1943・7・12　pp. 248-249
1943・7・18　pp. 249-251
1943・7・28　pp. 251-254
1943・8・4　pp. 254-257
1943・8・16　pp. 257

49) この論文は「宗教戦争の回帰」(Retour aux guerres de religions) と改題され，ラ・ターブル・ロンド (n° 55, 1952年7月) にも発表される。

50) ロアンヌ女子高等中学の哲学教師であったシモーヌ・ヴェーユの講義録。生徒であるアンヌ・レーノ

ー（Anne REYNAUD）がまとめ出版されたもの。

51）〈ＬＰ〉にみられる「力」の頻度

force： 29, 62, 75, 76(5), 124(2), 158, 164, 168(2), 171, 176(2), 177(2), 183, 191(2), 192, 215, 219, 225, 231, 261, 268, 277(4), 278(5)

pouvoir： 56, 71, 72, 76, 85, 114, 125, 160(3), 171, 181(3), 183(2), 184, 190, 194(3), 195(5), 196, 197(2), 198, 199, 200, 201, 231, 232(2), 266, 273, 274, 277, 281, 282, 283, 285(2)

puissance：45, 47(2), 56, 58, 86, 87, 120, 125, 144, 145, 189(2), 151, 166, 174, 183(3), 184(2), 194(2), 196, 199, 200, 203, 223, 226, 257, 266(2), 268(2), 277(3), 279

pesanteur： 45, 91

vertu： 78(2), 87, 158, 162, 167, 194, 212, 214(2), 215, 218, 220(2), 222(2), 223(3), 224(4), 230(3), 232, 234, 235(2), 261, 264(3), 272(2), 280(2), 281, 282, 283(2), 285, 295, 297, 298

52）これは工場体験直前に脱稿した「自由と社会的抑圧との諸原因についての考察」の冒頭の改稿を促すような論文である。

53）ほかに〈ＳＳ〉に残っている作品として「英雄メレアグロスの春」（Printemps de Méléagre）（pp. 73-74）がある。ただし，「力」に関する単語は見当たらない。

54）このページ数のうち pp. 282-284 は異稿（variante）である。

55）感情または感受性と，身体との関係の素描については，「新潟大学教養部研究紀要」第14集，pp. 49-71参照。